

花と緑の滋賀吟行会（令和5年4月9日…大津市生涯学習センター）

朝妻 力 選

特選

行く春の湖畔に偲ぶ膳所の城

谷野由紀子

城跡に少し長けたる蘆の角

小林伊久子

入選

松ぼくり蹴つて近江の春惜しむ

大山 文子

春風や押し手の代る車椅子

大島 幸男

膳所城の遺構を残す町のどか

富田 美子

琵琶湖畔行く水色の春シヨール

岡村 美江

城門をくぐれば淡海風光る

有村真由美

義仲寺にみづうみの風柳絮飛ぶ

藤田 駒代

競ひ合ふごと城あとの松の芯

福井 貞子

桜蘂ふるさざ波の志賀の浜

杉浦 正夫

みづうみの風城跡の松の花

田邊 富子

花すぎの城址をめぐる水曲輪

福尾 典子

龍神のごと水城の松の芯

恒藤 俊子

湖風に名残の桜耀へり

川上 純一

葉桜や木の間に湖のきらめきて

坂本 牧

湖を背に桜蘂降る膳所城址

藤田 壽穂

道問うて道づれとなる滋賀の春

藤本 厚子

### 柴田多鶴子 選

### 特選

義仲も芭蕉も土に遠霞

古橋 寛人

湖のひかりをもらひ遅桜

新町 恵子

### 入選

大琵琶の空よく晴れて囀れり

鈴木 玲子

春風や押し手の代る車椅子

大島 幸男

さざ波の時にしら波春ならひ

中間 一司

叡山も比良ものびやか遠霞

中田 無麓

比良比叡湖平らかに蜩舟

西野登志子

引鴨の水走りして風に乗る

堀 瞳子

大琵琶へ今年の花の名残り散る

西原 薫

かの人のをらぬ近江の残花かな

宮谷 昌代

みづうみのさざ波を背に草を摘む

太田 朋

日に倦みてゐる満開のチューリップ

朝妻 力

春や昔城あとに城ありし頃

青木喜美子

城跡の石組みずれて接骨たずの花

矢守 絢子

湖の光まみれに春の鴨

平 万紀子

木橋行く人眩しげに春帽子

村岸 正子

こころもち名残の花の揺れてをり

植松 秀子

## 田島 和生 選

### 特選

さざ波の時にしら波春ならひ

中間 一司

みづうみにさざなみの立つ残花かな

古橋 寛人

### 入選

花冷の志賀のさざなみ硬かりし

福本せつこ

虹色の首の輝き鳩の恋

常澤 俣子

花冷えの松風匂ふ城址かな

春名あけみ

うらけし湖上に亀の泛びゐて

田邊 富子

行く春の權よりひかり零れけり

田中 春生

湖風に鳴り出しさうや花楓

安里 道子

罇走る蕉翁の墓松の芯

新町 恵子

水城の礎石あらはや花は葉に

櫻井眞砂子

湖の匂へる城址残花かな

延永 和枝

残花透き湖のむかうの近江富士

田辺 須野

あしかびや子犬の駆けて子の駆けて

渡辺 やや

水切りのぐんぐん伸びてうららけし

大橋 節子

この道は母校への道残花かな

中島 幸子

父は釣り子は水切りの春の湖

廣瀬 正樹

大琵琶の湖面かがよふ桜まじ

小谷 廣子

### 名村早智子 選

#### 特選

引鴨の水走りして風に乗る

堀 瞳子

叡山に湖のあかるさ春の鳩

六車 佳奈

#### 入選

大琵琶の空よく晴れて囀れり

鈴木 玲子

メタセコイア芽吹きの前に比良比叡

北川 道子

のどけしや淡海の果ての見えずして

堀 康恵

見納めの桜を膳所に惜しみけり

中村 未有

さざ波の時にしら波春ならひ

中間 一司

花冷えの松風匂ふ城址かな

春名あけみ

霞みゐる比叡背に真帆片帆

福長 まり

春愁の湖岸に拾ふ片つ貝

藤本 厚子

ふらここを漕げば翼の生えて来し

中島 幸子

鷹鳩と化してみづうみのたりのたり

宮田絵衣子

淡海のひかりはなれずつばくらめ

吉川美登里

行春に魚板の一打翁呼ぶ

豊田 征子

石垣の隙間に遊ぶ春の波

恒藤 俊子

大手門跡にコンビニニ山笑ふ

村上 光代

兄の吹くしやぼん玉追ふ妹よ

小寺 篤子

### 森田純一郎 選

### 特選

鳥帰る水の近江をはるかにし

岡 俊明

行く春や義仲寺の庭静もれり

高木 哲也

### 入選

大琵琶の空よく晴れて囀れり

鈴木 玲子

城濠の名残の水辺亀鳴けり

山根 悠翁

淡海のあをを深めて桜東風

藤田 駒代

見納めの桜を膳所に惜しみけり

中村 未有

城跡の風に抗ふ飛花落花

多賀 晃信

まつ先に竹生島見え花見船

福本せつこ

湖に突き出る城址松の芯

大石 久美

漣に足許濡らし春惜しむ

名村早智子

葉桜や風筋見ゆる琵琶湖畔

森本 豊美

城門を抜ければ琵琶湖風光る

阪野 雅晴

ふつくらと湖水に育ち瀬田蜆

鎌倉 英二

行く春の湖畔に偲ぶ膳所の城

谷野由紀子

湖のひかりをもらひ遅桜

新町 恵子

膳所城の往時を偲ぶ残花かな

能勢 勇

湖を背に桜葉降る膳所城址

藤田 壽穂

山尾 玉藻 選

特選

うつせ世の四方に花散る翁堂

福井 緑

塩にぎり春の湖水に手を洗ひ

上南 明江

入選

緩る緩ると魴を掠むる残り鴨

阪本 節子

小庇の巢組み大事に湖魚販ぐ

福山 良子

漣を自在に渡り残る鴨

竹内 恵子

とみかうみ大湖の春を惜しみけり

森山 久代

行く春の權よりひかり零れけり

田中 春生

水草生ふ水面に大き日に乗せて

鎌倉 英二

湖風に鳴り出しさうや花楓

安里 道子

鷹鳩と化してみづうみのたりのたり

宮田絵衣子

義仲も芭蕉も土に遠霞

古橋 寛人

みづうみの青より青き草を踏む

岩井 英雅

若緑絵の具三色あれば良し

門野 典子

かつて城ゆらしし湖やつばめ来る

芳野 珠江

翁堂の魚拓を撃てば初音かな

若林 白扇

ぜんまいの丈にも足らず巴塚

渡辺 やや

連山の風のとけあふ春の湖

小林伊久子